

民族問題への対応の重要性

三八三 ア・ア・ヨッフエへ

一九二一年九月十三日

同志ヨッフエ！

政治局の今日の決定は、ごらんのとおり（それを同封しておくが）、9月9日付のあなたの至急便を大幅に満足させている*。

もっと詳しい報告書を送るようぜひお願いする。

そればかりでなく、私個人として、問題をもっとよく理解するために、「ロシア人」（大ロシア人もしくは植民者）の利益の過大視に対抗して原住民の利益を擁護する問題に、特別の注意をはらうようお願いしたい（あなたの報告か、報告への特別の補足で）。

サファロフにたいする原住民の態度は？ **事実、事実、事実。**

原住民自身（サファロフの支持者の）はどんな人たちか？ 名まえは？ 経歴は？ 権威は？（事実、事実……）。

自分の立場を守りとおすことができるだろうか？ たしかに、できるだろうか？ トムスキーのような、抜け目のない、しっかりした、頑固な人物にたいしても？

そういう人が何人いるか？

「貧農組合」（サファロフがつくった？）——その構成は？ 意義は？ 勢力は？ 役割は？ 原住民を「強制的に」階層に分けたというのは、ほんとうだろうか？

綿花は？ その運命は？ サファロフが綿花をだめにしてしているというのは、ほんとうだろうか？ **事実、事実。**

フェルガナの戦線はどうか？ バスマク運動はどうか？ トムスキーとサファロフの「方針」にたいするこの運動の態度はどうか？ バスマク運動にかんする事実とトゥルケスタン中央執行委員会の正確な決定は？ トムスキーとサファロフ、または彼らの支持者たちが、この問題にかんして、どういう点で、いつ、意見を異にするようになったかという事実は？（いつ、どういう点で、意見が分かれるようになったかを正確に知るために、該当する諸決定の抜書きを）。

中央委員会の内部にも、この問題にかんして若干の意見の対立がある。

もっと正確な情報をつかむことが、きわめて重要だ。

私自身としては、「トムスキーの方針」（おそらく、ペテルスの方針、もしくはプラヴヂンの方針、その他等々といったほうが正しいのかもしれないが）に、大ロシア人的排外主義、より正しくは、この方向への**偏向**があるのではないかと**非常に**疑っている。

われわれの世界政策全体にとって、原住民の信頼を**獲得**すること、三倍も四倍も**獲得**すること、われわれは**帝国主義者**ではない、われわれはこの方向への**偏向**を許しては**おかない**ということを証明することは、非常に必要である。

これは世界的な問題である。世界的といっても大げさではない。

ここでは、きわめて厳格でなければならない。

これは、インドに、全東洋に、影響をおよぼすだろう。ここでは、いいかげんにやってはならない。ここでは、千倍も慎重でなければならない。

共産主義者の挨拶をもって レーニン

注) ……は本文中の表記

事項訳注 P853-854

* 1921年9月9日付の電報で、ヨッフエは、全ロシア中央執行委員会トゥルケスタン委員会議長エム・ペ・トムスキーとトゥルケスタン・ビューロー員ゲ・イ・サファロフとのあいだに意見の相違があるため、ロシア人と地元住民のあいだに、また個々の非ロシア民族とのあいだに、敵意が生じている、と伝えた。9月13日、党中央委員会政治局は、ヨッフエの報告書を受け取り、すべての資料を政治局の全員に読ませたうえで、トゥルケスタン政策の問題を審議するという決定を採択した。1921年10月14日、政治局はトゥルケスタンでの活動の問題を審議したのち、トゥルケスタン・ビューローとトゥルケスタン委員会との新しいメンバーを決定し、トゥルケスタンでの党活動、ソヴェト活動の基本的任務をさだめた。政治局は、新経済政策をトゥルケスタンで慎重に実施する必要性を強調した。

本文中のバスマク運動は、中央アジアの民族主義的反革命運動。

第四五巻 P355-357 『ア・ア・ヨッフエへ』

1921年9月13日に執筆

1956年に新聞『プラウダ』第19号にはじめて一部発表

1959年に『レーニンスキー・ズボールニク』第三六巻に全文発表
手稿によって印刷